

シグマ研究委員会核データ専門部会
ガンマ線生成核データ W. G 第 6 回会合議事録

日 時 昭和55年1月28日(月) 13:30~17:30
場 所 原研本部第31会議室
出席者 播磨, 井頭, 河北, 吉田, 浅見(哲), 水本, 五十嵐

配布資料 :

1. 前回議事録
2. 文献調査資料(吉田)
3. 計算例資料(播磨)

I. 前回議事録確認

II. 一般報告

JENDL-3 作成のために核データの評価方法の確立と計算コードの整備を急ぐ必要から55年度にはW.G.の改組を行うことになった。特に重核データW.G.と軽・中重核データW.G.の一部を合併して核データ評価コードW.G.を新設する。こゝでのコード整備は当W.G.とも関係があり、何らかの協力関係が生ずる等の報告があった。

III. 作業経過報告

- (i) 水本氏 : GROGI を ^{143}Nd について動かしている。東工大の version と理研の version とを比較しているが, transmission coefficients の扱いや level density が異っている。
- (ii) 吉田氏 : 資料2により調査した文献の概略を説明した。
CASTHY を CDC で通るようにしている。試計算の結果に若干問題がある。
ALICE が使えるかどうか調べたが, 今の目的には使えそうにない。むしろ統計模型の STAF code の方が使えるかも知れないので調べてみたい。

(iii) 播磨氏 : 資料3によりFeを例としてCASTHYとDUCALを調べた。

DUCALのECUTを0.0として、またE1のみとしてCASTHYと比べると比較的良く合う。DUCALではこうしてもdiscreteの効果が出ている。未整備の所があるらしい。ORNLの測定と比較してparameterの取り方を決めてみたい。

(iv) 浅見氏 : GROGIでCrとPbのthreshold reactionの計算をしているが、Pbは実験と良く合うがCrの方は傾向が合わない。

これらの報告に対し以下のような質疑と意見が出た。

(i) GROGIについて : このCodeにはいろいろなversionがあるので統一しておく必要がある。level densityやoptical potentialを一般的に使えるようにしておくことなどを含めて共通のcodeとして整備したい。

これは、播磨、川合、山越、浅見の4氏が担当することとし、各自から使用経験に基づいて希望を出してもらうことになった。

(ii) STAFについて : 差し当ってはW、Gの作業とはせず、吉田氏が検討してみたらどうするかを決めることにした。

(iii) CASTHY, DUCALについて : 核種を同じにして計算し、比較して問題点を探ることにした。

IV. 55年度計画

(1) GROGIの整備を最初に行い、DUCAL, CASTHYは東工大と原研とで使用して比較して問題点を操る。

(2) data調査は現在行っている核種について進めるが、55年度途中からは増していく。

(3) ENDF/B-IVのformatに合わせてどんな量をoutputしたら良いかを川合、山越の両氏にまとめてもらうことにした。

V. その他

ENDF/B-Vでガンマ線データを扱っている核種を調べて次回に提出する。

ガンマ線データをSPLINT で書けるようにすることを要求する。

VI. 次 回 4月11日東京で行う。